

## 第32回泌尿器科漢方研究会学術集会

代表幹事:堀江重郎(順天堂大学大学院医学研究科泌尿器外科学)

日時:2015年6月20日(土) 13:00~18:05

会場:コクヨホール(東京都)

### 泌尿器科領域における抑肝散、 四逆散の使い方

LUNA骨盤底トータルサポートクリニック  
関口 由紀

【はじめに】泌尿器科領域でも、緊張する場面で悪化する過活動膀胱や、鎮痛薬や抗うつ薬では抑えきれない間質性膀胱炎の尿路不定愁訴などに抗不安薬を使用することがある。そして一度抗不安薬を開始するとその後なかなか中止できないこともよくある。このような症例に漢方薬の抑肝散や四逆散を処方すると抗不安薬を使用しなかったり、減量できたりする。今回この抑肝散と四逆散を投与した症例を提示し、両処方を使い方を考察する。

【症例1】53歳女性 主訴：残尿感

現病歴：6か月前から残尿感、頻尿あり、他院で検査・投薬を受けたが原因はわからず、症状もとれない。

現症：超音波検査正常、尿検査正常、残尿なし

経過：膀胱痛症候群としてトリプタノール10mg開始、1か月後20mgへ増量、腰痛あるためツムラ疎経活血湯5.0追加。2か月トイレをがまんすると、その後頻尿になるという訴えから、さらにツムラ抑肝散5.0g追加。4か月後夜間尿0-1回、昼間は2時間ごとの排尿間隔。残尿感なしとなり、膀胱訓練で経過観察となった。

【症例2】80歳女性：主訴：膀胱痛、全身痛

現病歴：1年前に膀胱炎から腎盂腎炎になり、抗菌剤で治療した。発熱、尿所見は改善したが、背中と膀胱の痛みは残った。その後痛みとしびれが、全身に広がった。整形外科、神経内科で検査したが異常なし。線維筋痛症、間質性膀胱炎の合併として紹介になった。

現症：超音波検査正常、尿検査正常

経過：サインバルタ20mg、ツムラ抑肝散5.0gで治療開始。サインバルタは、1か月ごとに40mgまで増量。これでかなり痛みはよくなったが、頻尿とのどがつかえる感じがあるということでツムラ半夏厚朴湯を追加した。4か月後背中になにか重いものを背負っている感じと、夜間頻尿がまだよくなるため抑肝散をツムラ四逆散に変方したところ、季肋部の違和感を残してほぼ症状は改善した。

【考察】抑肝散は、胃腸が弱く、比較的体力ない患者のイライラや神経過敏に用いて効果が高い処方である。一方四逆散は、中間証以上の患者のイライラや不眠、さらには抑うつに使用される。両者とも抗不安薬的に使用することが可能で、使い勝手のよい処方である。